がんばろう
南三陸町
復興第21号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069
後援：
志津川広報センター

モアイが南三陸町へまた来た！

今年のゴールデンウィークは、仙台・宮城ディスティネーションキャンペーンが４月より開催され、志津川地区の仮設商店「南三陸さんさん商店街」のモアイ像の設置もあり、多くの来町者を迎える事となった。宮城県合同庁舎跡地は、大型バスはもとより、多くのマイカーでの仮の特設駐車場は満杯となった。商店街は「ウニ丼」などの南三陸町の海鮮「キラキラ丼」に沢山の観光客が舌鼓、南三陸町の旬の味を満喫した。

〔贈呈記念式典〕

平成25年５月25日（土）午前10時から「南三陸さんさん商店街」駐車場を特設会場として、「モアイ像贈呈記念式典」が開催された。

チリ共和国イースター島で島民の手により造られたモアイ像が、日本とチリの友好と震災復興のシンボルとして、日智経済委員会等で組織する「モアイプロジェクト実行委員会」のご支援により、南三陸町に寄贈されることとなった。

式典には、チリ共和国からの来賓、93歳の老彫刻家マヌエル・トゥキ氏の息子さんや家族の方々も出席した。国内からは「モアイプロジェクト」に尽力と協力をした佐々木幹夫前三菱商事会長をはじめとする経済団体の方々、南三陸町からは町長・副町長・議会や商工観光団体・関係団体・職員が集まった。その他「復興への絆」のイベントを伝えようと、多くのカメラマンや、新聞報道機関、そして多くの町民が祝福に集まった。

（ロベルト・デ・アンドラッカ氏の挨拶から）

チリ地震津波から30年たった1990年、復興を遂げていた志津川の町はかつての悲劇を追悼することにし、在京チリ大使に参加してくれるよう呼びかけました。こうして生まれたのがチリプラザ（松原公園）です。その中心にはチリアンデスの峰々の上を飛ぶコンドルをのせた高さ６メートルの柱が建てられ、イースター島のモアイ像の複製も置かれました。

南三陸がチリ共和国をより知ってもらいたいと考え、志津川高校の生徒３名と先生１名を、今後３年間にわたり、毎年招待するプログラムを企画しました。イースター島を始めチリの他の場所も訪れていただければ、本当のチリに親近感をもっていただくことができます。若者ですからソーシャルネットワークを通じて見聞きしたことを広めていけば、さらにこの友情の輪も広がるでしょう。本日の式典にはこの研修プログラム第１回目として今年の３月に我が国を訪れたミウラ・ヒロシ先生、ヤマウチ・ミサキさん、オイカワ・リュウヤさん、エンドウ・リョウキさんの３名の学生さんと先生も式典に出席してくれました。

チリ国海軍イースター島駐在武官クラウディオ・モンテネグロ氏

チリは地震と津波の事をよく知っています。それゆえ命を失うことへの皆さんの痛みを自分のこととして理解しています。時間が少しずつ癒してくれることを願っています。自然は時折、私たち人間が弱い存在であることを教えます。このモアイのマナ（力）が、町の再建と魂の痛みを癒すのに必要な力と強さを、与えてくれることを願っています。

町長のあいさつでは、「53年前のチリ地震津波が襲ったのが昨日だった」「教訓を子々孫々まで伝えていき、確実に命を守るため高台へ移る」と話し、チリプラザ「モアイ像」を「チリとの交流のため、町民の皆さんと見守っていきたい」と語った。

[モアイ像贈呈記念祝賀会]

会場を南三陸ホテル観洋（多目的ホール）にて、午後０時30分より祝賀会がモアイプロジェクトメンバーや関係者300名余りが集まり開催され、後藤議長が「友好の絆が深まりますように」との乾杯の音頭で祝宴が始まった。

日本の有名な山形県庄内町のイタリアンシェフ奥田氏（レストラン・アル・ケッチャー）とチリ共和国の料理長が南三陸の山海の食材を使い、料理を振る舞った。ウニ・カキ・ホタテ・しらすを使った前菜からはじまり、南三陸町のブランド銀鮭のマリネ、チリ産サーモンのちゃんちゃん焼観洋風など、南三陸町とチリのコラボ料理がテーブルに並んだ。また、苺とだだちゃ豆ロールケーキは、山形県庄内町と南三陸の山の幸の「復活！」と題されたデザートが最後に出された。二人のシェフが趣向を凝らして、南三陸町の再生を願い「モアイ像贈呈祝賀会」に華を添えた。

〔八神純子さんも祝賀会に出席〕

「水色の雨」「パープルタウン」でおなじみの歌手八神純子さんの姿が会場にあった。南三陸町・チリ共和国との繋がりの偶然を話してくれた。八神さんが初めて行った海外がチリ共和国であり、東日本大震災では最初に支援で訪れたのが南三陸町だった。小さな町と大きな国との自然の出会いと思うが、それが偶然か必然かと言うと、出会わせてくれたのが「自然災害」だったと言う。大震災後に志津川漁協で漁民の人たちを応援する姿が、バックに映像で綴られていた。

歌も披露され「つばさ」を熱唱し、「明日はくるから、あきらめないで」と歌詞にはあった。２曲目の「ミスターブルー」では、地球を歌った詩で「美しい町」との歌詞は南三陸町に思えた。

テーブルの一つには彫刻に係わった「トゥキ家」の家族８人が座った。陽気な気質の皆さんで「創作復興太鼓」「水戸辺獅子踊り」の披露に笑顔で大拍手を送っていた。

日本の東京・大阪での披露を終え、贈呈されたモアイ像が「南三陸さんさん商店街」に仮設置された。志津川市街地八幡川西側の「祈念公園」が整備されれば、この場所に本設で移される。

６月定例議会　７議員が質問

◆大瀧りう子氏

①障害者総合支援法の具体的対策は。②仮設住宅で特に一人暮らしの男性が地域行事に参加することが少ないと聞く。シルバー人材センター復活の見込みは。③非核平和条例の制定を。

佐藤町長　①84人中54人が町外でサービスを受けている。サービス事業者が町内で事業を展開できるように支援を行っていきたい。②立ち上げれば会員は集まると思うが、しっかりと仕事が提供できる環境にあるかどうかだ。検証する必要がある。③全国の市区町村で制定しているのは1600のうち14で内容は理念。条例のあるなしに関わらず平和を希求することが大切だ。

◆星喜美男氏

住宅の建設が始まろうとする時期の消費税増税は足かせ。被災地の特例処置を国に訴えるべき。

佐藤町長　消費税引き上げと時を同じくして、防災集団移転促進事業による高台移転造成地での住宅再建が本格化し、多くの被災者が影響を受けることになる。町と気仙沼市、石巻市など沿岸５市町で組織する県東部沿岸大規模被災市町連携会議で県知事とともに復興大臣、財務大臣に要望活動をすでに行い、その場でも消費税の問題を取り上げた。

負担軽減策として交付金を個人へ還付する方法などが検討されているということなので、今後も被災市町連携会議などを通じて積極的に働きかけていきたい。

◆髙橋兼次氏

①今後の水産振興にどのような施策を講じるか。②観光振興の今後の取り組みは。

佐藤町長　①水産業の再生なくして町の再生はない。志津川魚市場は県所有地への建設になり、高度衛生管理型施設を実現するための費用や用地計画など国、県の理解が必要だ。シロサケふ化場の選定作業が難航しているが、着実に解決していきたい。水産加工業の再建は、区画整理事業で整備するゾーンに集積を図りたい。②南三陸ポータルセンターが８月にオープンする。教育旅行の再生にも大きく貢献すると考える。２、３年後を見据えた旅行業界、学校関係者の現地視察も始まっている。人をつなぎ止めることが観光振興に重要だ。

※ 一般質問は順不同です。続きは次回掲載します。

南三陸町避難生活者へ
物資支援と手品で応援

飯島マジッククラブ被災地公演

◆ **７月 14 日**（日曜日）午後４～６時
平成の森集会所

◆ **７月 15 日**（月曜日）午前10～12時
南方仮設集会所

ご来場の方々に物資支援がありますが、数に限りがありますのでご容赦下さい。

長野県飯島町
飯島マジッククラブ

気仙沼・本吉地区中体連総体結果

志中グラウンドの大会前の練習風景

野球　◇１回戦　戸倉12－5大島－6回コールド　歌津5－4条南
◇２回戦　志津川4－2戸倉　歌津8－2階上
◇準決勝　志津川6－1気仙沼　歌津3－0面瀬
◇決勝　志津川6－2歌津
バスケットボール　【男子】
◇準々決勝 志津川47－45面瀬 歌津101－22松岩
◇準決勝 歌津60－32条南 小泉104－29志津川
◇決勝 小泉101－50歌津 小泉、歌津が県大会へ
【女子】 ◇1回戦　松岩53－12戸倉
◇準々決勝 歌津37－11松岩 志津川78－25鹿折
◇準決勝　志津川59－26新月　津谷69－22歌津
◇決勝　志津川62－37津谷
志津川、津谷が県大会へ

バレーボール　【男子】◇総当たりリーグ
志津川2－0階　上　志津川2－0松岩
大　島2－0志津川　面　瀬2－0志津川 ③志津川
【女子】◇予選　▷２グループ－②歌津
▷４グループ－②志津川
◇決勝トーナメント１回戦
小泉2－1志津川　津谷2－1歌津
ソフトテニス　【女子】
◇団体　▷予選Ｄリーグ－②志津川　④戸倉
◇決勝トーナメント準々決勝　大谷2－0志津川
卓球　【男子】
◇団体　▷予選Ｂリーグ－③志津川
◇個人　⑤齋藤俊輝（志津川）－県大会へ
【女子】◇団体　▷予選Ａリーグ－②志津川
▷予選Ｂリーグ－②歌津　④戸倉
◇決勝トーナメント準々決勝　面瀬3－0志津川
小原木3－0歌津
◇個人　⑤高橋琴乃（歌津）　⑨渡辺杏奈（志津川）
サッカー　◇予選Ａグループ
津谷11－0歌津　鹿折4－0歌津　条南8－0歌津
◇予選Ｂグループ　気仙沼10－0志津川
新月1－0志津川　大谷5－0志津川

ソフトボール
◇決勝志津川13－8鹿折　志津川が県大会へ
剣道　【男子】
◇団体－①歌津－県大会へ　③志津川
◇個人－①千葉涼音（歌津）③須藤駿介（志津川）
【女子】◇団体－①歌津－県大会へ　②志津川
◇個人－②千葉怜奈（歌津）③佐藤七海（同）岩石桂惟（同）
柔道　【男子】◇団体▷総当たり戦
条南4－1志津川　志津川3－1鹿折　②志津川
◇個人　▷50キロ以下級－①小野寺礼嗣（志津川）－県大会へ　②山内凌人（同）
▷55キロ以下級－①山内怜（志津川）－県大会へ
②阿部晃太（同）
▷73キロ以下級－①渡邊諄（志津川）－県大会へ
▷81キロ以下級－①渡邊飛龍（歌津）－県大会へ
②阿部蓮（志津川）

試合前に気合を入れる

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成25年（2013年）
～ 地元報道より ～

４月の出来事

◆安心感増します

南三陸消防署の仮設庁舎が完成した。震災の津波により旧庁舎が全壊したことで、消防職員はベイサイドアリーナ隣のトレーラーハウスで業務に当たっていた。4月1日には南三陸消防署と歌津出張所の開所式が同消防署で行われ、消防署員ら30人が出席した。

◆がれき処理２割終了

南三陸町戸倉在郷で行われている震災がれきの処理は3月末現在、土砂などを除く46万トンのうち10万6千トン(23%)が終了した。がれき搬入は9割ほど終了し、全体の処理作業は順調だが、がれきに含まれる可燃物が予想よりも多く、新たながれきが見つかるなどしており、焼却は1～2か月ほど遅れる見通しとなった。

◆8月から盛り土工事へ

南三陸町は、志津川市街地で行う盛り土工事を8月からスタートさせる。4月には浄化槽などの撤去と、盛り土工事着手の承諾書を土地所有者に発送し、6月からは撤去工事に着手する予定。区画整理事業の完了までは6～7年としている。

◆震度自動通報を再開

南三陸町は、震度情報を防災行政無線で自動放送するシステムの運用を再開した。

震災により震度計などの関連システムが流失。住民が情報を得る手段はテレビ、ラジオなどになっていた。今回新たに2つの震度計が設置され、震度4以上を観測した場合、自動的に防災無線から情報が放送される。

◆中央地区発掘調査 本格的にスタート

南三陸町が高台移転先の一つとして計画している志津川中央地区で、埋蔵文化財調査が4月11日から本格的に始まった。

調査が始まったのは600年ほど前に使用されていたと伝わる新井田館の遺跡。作業員55人を雇用し、来年3月までを予定している。

◆2年ぶりに化石里帰り

世界最古のギョリュウ化石として知られる「ウタツギョリュウ」の化石が南三陸町歌津に里帰りし、歌津地区コミュニティ図書館「魚竜」に展示されている。

今回里帰りした化石は一部だが、町生涯学習課の及川課長は「ギョリュウ化石は地域の宝。魚竜館を再建させたいと考えており、公共施設の配置、まちづくりなどを勘案して、検討したい」と話している。

◆ベイサイド前にタコ型時計

南三陸町のベイサイドアリーナ前にタコの形をした時計が設置された。平成の森に設置したひまわり型の時計とともに町に寄贈されたもので、高さが約5メートル、文字盤の直径が70センチほどのソーラー式電波時計となっている。

◆気仙沼信金 志津川支店が完成

気仙沼信用金庫志津川支店の新店舗が4月15日、志津川磯の沢地内にオープンし、落成記念式典が行なわれた。震災後初の本復旧による金融機関になり、町民の利便性向上が期待される。

◆農漁家レストラン再開

南三陸町戸倉、農漁家レストラン「慶明丸」が4月17日に新店舗にて再開した。

震災で店は全壊したが、「慶」の文字が入った看板の浮き玉が、米アラスカの海岸に流れ着き、戻ってきたことが店の再開を後押しした。セレモニーには関係者や地元民ら約50人が参加し、ワカメのしゃぶしゃぶや、炊き込みご飯などが振る舞われた。

◆歌津で初の造成着手

南三陸町の寄木・韮の浜地区防災集団移転促進事業の造成工事が4月18日、歌津砂浜地内で着手された。歌津地区内では第1号となり、この日は現地で安全祈願祭が行われ、出席した関係者ら40人が一日も早い完成を願った。

◆ベイサイドアリーナ 復旧工事始まる

東日本大震災の地震被害を受けながらも対策本部などの拠点となった総合体育館「ベイサイドアリーナ」の災害復旧工事が始まった。

地震によって一部外壁が崩れ、文化交流ホール天井裏は「崩れ落ちる寸前」だったが、津波により町内施設が壊滅する中、高台にある体育館に公共機関が集中し、物資倉庫、避難所、遺体安置所の役目も果たしてきた。イベントや会議などでの利用も多く、仮補修は行われたが復旧工事は手を付けられずにいた。

アリーナは9月末まで利用を停止し、ホールは期日前投票所となる7月までに工事を終える。

◆小森への商業施設続々

南三陸町志津川小森地内で商業施設の出店が相次いでいる。付近に建設される三陸道のインターチェンジにより交通量の増加が予想されるためだ。

町の計画は、主に八幡川と新井田川に挟まれた一帯に商業施設を張りつかせるものであったが、仮設店舗で営業中の商店からも小森地区といった内陸部や住宅団地が形成される高台での営業を望む声もあり、市街地形成はプラン通りになるかどうか不透明な状況となっている。

◆がけ近で半数が町外転出

南三陸町が昨年度受け付けた個別移転世帯の補助金交付申請で、全体のうち約半数が町外への移転だったことがわかった。2種類ある両事業を合せた受け付け軒数は124件。このうち町外への移転は58件で全体の47%に当たる。進まない復興事業に町外へ出ていくケースも見られ、復興へのさらなる加速化が求められている。

◆戸倉中統合 正式決定

南三陸町教育委員会は4月24日、町立戸倉中学校を26年4月に志津川中学校と統合させることを正式に決めた。震災によって生徒数が大幅に減少し、今後も歯止めがかからない傾向にあるため適正規模の教育環境に整えるべきと判断された。

平成25年度　第１回輝き杯争奪グラウンドゴルフ交流大会成績表

平成25年6月2日（日）　南方仮設交流広場　　◎参加者数　65人（男40人・女25人）

◆総合

優勝	氏　名				備考
	遠藤正子				76歳
打数	ホール	1打	2打	3打	4打
39	16	1	6	7	2

グラウンドゴルフの日々の練習から

◆男子の部

順位	氏　名	打数	ホール	1打	2打	3打	4打	5打	備考
1	佐藤昭夫	39	16	1	4	#			77歳
2	阿部雄衛	40	16	1	6	6	3		77歳
3	西城正光	40	16	1	5	8	2		75歳
4	根本正吾	40	16	1	5	8	2		75歳
5	畠山武人	40	16	1	4	#	1		75歳

◆女子の部

順位	氏　名	打数	ホール	1打	2打	3打	4打	5打	備考
1	遠藤正子	39	16	1	6	7	2		76歳
2	遠藤ゆき子	44	16		6	8	2		71歳
3	梅澤てるゑ	44	16		6	8	2		85歳
4	佐々木利知子	45	16	1	3	8	3	1	
5	阿部フミ子	45	16	1	2	#	2	1	82歳